

# 見玉研究室

2024



## 研究内容と魅力

二百年ほど前のドイツ語圏の文学作品を研究対象として取り上げています。当時と今とでは時間的にも空間的にも大きく隔たっているのですが、そこに暮らす人びとの不満や葛藤、行動や不行動、目指される解決などは現代と通じているところが面白いです。貧困、災害、情報リテラシー、ジェンダー平等、環境政策から生命倫理に至るまで、現代社会が直面している諸問題は多岐にわたります。過去の出来事について振り返り、さまざまな視点から分析と考察を加えることで、私たちが生きている現在やこの先の未来をより充実したものに発展させられると考えています。

## 研究テーマ



18世紀後半から19世紀前半にかけてのドイツの文学作品における〈文学〉と〈政治〉の関わりについて研究しています。

### 見玉麻美准教授



自分の考え方や生き方がワンパターンすぎてつまらなくなってきた時、新しい世界を開いてくれるのはやっぱり文学作品かなと思います。学生の皆さんにも、是非まだ手にとったことのないタイプの本に挑戦してみてください。

## これまでの活動

出版や集会の自由などが厳しく制限された三月前期のドイツ語圏において、作家たちが抑圧的状况下でどのようにして作品を書いたか（あるいは書けなかったのか）ということ进行を明らかにするため、グラッベという劇作家の歴史劇について研究してきました。現在は、19世紀の女性作家や女性革命家たちの活動に関心をもっています。

